

# 4.

## 情報の共有化が深まると、チームに現れる8つの現象

チーム内で情報の共有化が深まってくると、ある現象が現れてきます。ここで紹介する8つの項目は、実際の職場において報連相の取り組みが浸透してきていることを測る有効な指標となります。

### 1 挨拶が気持ちよく、元気なものになる

情報の共有化が深まると、挨拶がとても丁寧で、元気のよいものになります。これまで出勤時にしっかりと挨拶ができていなかった人も、情報の共有化が深まってくると、仕事の手を止めて、相手のほうを見て、元気に挨拶をするようになります。わざわざ相手のほうに身体を向けて、挨拶をする人も出てきます。

情報の共有化が深まることで、挨拶がよくなるには、理由があります。それは、報連相の大切さがわかるようになると、「出勤時や退勤時などにしっかりと挨拶ができないようでは、仕事に相手に話しかけて、きちんと報連相をすることができない」と、理解できてくるからです。

また、情報の共有化ができるようになれば、職場の仲間への理解が一層深まり、好意や親近感をもてるようになっていきます。



### 2 「目的」という言葉が日常的に使われる

報連相ができてきている組織では、「目標は、目的達成の手段である」ということをメンバーがよく理解しています。情報の共有化が深まると、「目的」という言葉が組織内で日常的に使われるようになります。「目標を共有するだけでは、その意味がわからない」と感じるからです。

新しい仕事を始めるときや中間報告をするときに「この仕事の目的は何か」「何のためにこの仕事をするのか」といった質問を上司から投げかけられたり、仲間同士で確認したり、あるいは自問自答したりするようになるのです。

### 3 上司から部下への報連相が増える

「報連相は、新入社員のビジネスマナー程度のもの」と考えている人がいますが、現実の報連相は、仕事の進め方そのものであり、組織全体の〈情報の共有化の要〉と呼ぶべきものです。

情報の共有化が深まってくると、当然のことですが〈上司から部下への報連相〉が増えてきます。それは、時には部下に対しての支援や情報提供の報連相であり、また情報共有のための報連相であったりします。さらに、情報収集のための報連相であるケースもあり、実にさまざまです。

### 4 アルバイトの人たちも経営理念や職場の現状をよく理解するようになる

情報の共有化が深まると、パートタイマーやアルバイトの人たちも、会社の経営理念や自分の所属する組織の現状、仕事の意味(目的)といったものをよく理解するようになります。パートやアルバイトの人たちが働く環境は、社員によってつくられています。環境をつくる側の人間が「何を大切に仕事をするのか」を考えて仕事に向きあうようになると、その雰囲気が「仕事に対する姿勢」となって、パートやアルバイトの人たちにも伝わります。

その結果、パートやアルバイトの人たちも経営理念の重要性を肌で感じとり、仕事に対する自分の役割を考えるようになります。また、必要な情報が入ってくるので、自分で仕事が判断できるようになります。その結果として、言われたことだけをやるのではなく、自発的に行動するようになるのです。